

# 障害児入所施設の在り方に関する意見等



全国乳児福祉協議会

# 全国乳児福祉協議会（全乳協）の概要

1. 設立年月日 昭和26年11月10日

## 2. 活動目的及び主な活動内容

(1) 活動目的 乳児福祉事業の発展向上を期するため、全国的連絡調整を行うとともに事業に関する調査、研究、協議を行いかつ、その実践を図ること

(2) 主な活動内容(令和元年度事業計画)

① 総務活動 乳児院における養育の質の向上と支援の充実に向けた取り組み、全乳協20年小史の発行に向けた編纂、組織活動と連絡調整、全国乳児院協議会(大会)の開催、永年勤続者表彰の実施

② 制度対策研究活動 乳児院の今後のあり方の検討・提言と都道府県社会的養育推進計画策定への対応、調査研究の実施、政策・予算対策活動

③ 広報・研修活動 人材育成等の取り組みの強化、養育の質の向上等のための研修会の実施および他団体研修事業との協力、乳児院に関する広報・啓発活動

3. 会員数等 乳児院142施設(令和元年5月1日現在／加入率100%)

# 障害児入所施設の在り方に関する意見等

【視点-1 障害児入所施設の4つの機能から、ヒアリング団体の所管する施設・事業所との関係等について】

- 障害児の発達支援や社会的養護に関して、乳児院では、多くの医療的ケア児や障害児の受け入れを行っている。
- 全国の乳児院の入所児童の50.5%は病虚弱児である。  
医師が常勤する医療型乳児院と、その他多くの乳児院では、子どもの状態像が異なる。  
医療型乳児院ではより多くの医療的ケア児等を受け入れている。  
その他の乳児院でも、施設内では嘱託医や看護師を中心に、また外部の病院への通院・入院、障害児療育関係機関への訪問などの連携のもとで対応している。
- 障害児は2.4%と少ないが、これには乳幼児であることから具体的な障害名の診断が行われていない状況が考えられる。  
乳児院への入所理由は、虐待が39.4%、家族の精神疾患が17.5%、家族の疾病が5.8%などとなっている。子どもの身体・心理・社会面の発達に与える影響は大きく、障害の診断・認定はなされないものの、障害の疑いのある乳幼児、発達が気になる乳幼児は相当数受け入れている。  
本検討会第1回資料によると、福祉型障害児入所施設の入所児童年齢は、0・1歳が0人、2歳が2人とわずかであることから、0～2歳の障害のある・疑われる乳幼児のうちの相当数は、家庭とともに乳児院で養育しているのではないか。
- 「新しい社会的養育ビジョン」等で、乳児院にはケアニーズの高い乳幼児への対応が求められているが、こうした意味で、乳児院ではすでに手厚い支援の必要な子どもに対応している。

# 障害児入所施設の在り方に関する意見等

## 【視点-1 続き】

- 障害があり、社会的養護の必要な乳幼児を、児童相談所がどのように障害児入所施設や乳児院その他の入所等につなげているかについて、明確な判断基準は見受けられず、各地の社会資源の状況により対応されていると考えられる。障害児入所施設に入所する際に、退所に至るまでの支援の方向性を関係者間で協議し明確にする必要性を感じる。
- 児童相談所は親のアセスメントを行うが、確定診断のない乳幼児のアセスメントは難しく、乳幼児のアセスメント、また親子関係のアセスメントは乳児院が担っている現状がある。

# 障害児入所施設の在り方に関する意見等

## 【視点-2 障害児入所施設全般に関して課題と感ずることについて】

- 障害児入所施設の支援の質の向上と、施設数の抜本的な拡充が必要である。
- 乳児院では、どのような乳幼児も受け入れ、障害の有無よりも、乳幼児期の発達や、乳幼児が自らの生活を獲得していくプロセスに着目し、多様な専門職の協働により、個別的な養育やアタッチメント(愛着)形成に取り組んでいる。
- 乳児院は障害児入所施設に比べ人員配置基準が手厚いが、それでも「新しい社会的養育ビジョン」等が求める高機能化や小規模化を加速させるためには、職員配置の抜本的な改善が不可欠であり、具体的には子ども1人対職員3人の配置を要望している。障害児入所施設は、その配置基準からも、乳幼児期の丁寧な専門的ケアへの対応は非常に難しいと考えられ、現場では相当な苦勞をされていると推察される。
- 配置基準を大幅に改善し、4つの機能の充實を図っていただきたい。特に、障害に関する専門性のさらなる向上とともに、アタッチメントの発現が遅れる場合の受け止めや、家族・家庭養育の支援、また市町村や児童相談所などとの連携は強化が重要である。
- 乳児院が家庭養育を推進し、家庭復帰や里親委託が退所理由の半数以上を占めるなかで、手厚い専門的支援の必要なケースは他の施設への移管が検討される。その多くは児童養護施設への移管であり、障害児入所施設への移管は福祉型が1.5%、医療型が0.9%にとどまっているが、児童養護施設では対応が難しい障害や発達課題のある子どもが増えていると考えられる。社会的養護の受け皿として、乳児院や児童養護施設、里親・ファミリーホーム等とともに、障害児入所施設も大幅な拡充が望まれる。

# 障害児入所施設の在り方に関する意見等

## 【視点-3 障害児入所施設に期待することについて】

- PT・OT・STなど障害児療育の専門職に乳児院を訪問いただき、障害のある・疑われる子どもの養育に関する助言を受けることは、大変有効である。  
そのためのひとつとして、平成28年児童福祉法改正により、保育所等訪問支援の対象施設に乳児院が加わっているが、保育所等訪問支援への積極的な関与をいただきたい。
- 乳児院における保育所等訪問支援の利用が伸びていない現状がうかがえる。  
この背景のひとつには、利用申請が乳児院にはできず、保護者が市町村に申請する必要があることが挙げられる。  
精神疾患があったり、居住地を転々としている親も多く、そうした親の申請には相当な支援が必要となる。
- また、乳児院は児童相談所・都道府県とのつながりは強いものの、市町村とは日常的な関わりの薄い施設も多い。  
市町村への申請ということも、乳児院における利用の促進につながっていない一因と考えられる。

# 障害児入所施設の在り方に関する意見等

## 【その他】

- 障害福祉施策と家庭福祉施策など、各種施策のさらなる連携が必要である。
- 医療的ケアの必要な乳幼児について、家庭養育が難しい、障害者手帳を取得していないため障害児入所施設が難しい、病院でも受け入れが難しく、常勤医師のいない乳児院で受け入れたというケースも聞く。  
また、知的・発達に障害はないが、医療的ケア対応が必要なケースを乳児院が受け入れていることもある。
- 制度の狭間を生じさせず、子どもにとっての最善の利益が保障され、子どもありきの切れ目のない支援が提供される施策をお願いしたい。

# 参考資料

## 入所児童の心身の状況

- 「病虚弱児」が50.5%、「障害児」が2.4%、「健全」が47.0%。
- ※「健全」は、平成10年度は71.2%であり、減少傾向にある。
- ※「障害児」については、乳幼児であるため、具体的な障害名の診断が行われない状況が考えられる。

◆「平成29年度全国乳児院入所状況実態調査・充足状況調査報告書」(平成31年3月全乳協)より抜粋

- ・調査対象: 全国の乳児院139施設(回収率100%)
- ・調査対象期間: 平成29年4月1日～平成30年3月31日

	人数 (A)	割合
健全 (下記に当てはまらない)	889	47.0%
超低出生体重児 (1,000g未満)	16	0.8%
極小低出生体重児 (1,000～1,500g)	27	1.4%
その他の低出生体重児 (1,500～2,500g)	110	5.8%
精神・神経疾患 小計	117	6.2%
精神発達遅滞(自閉症、多動、ADHDなどを含む)	20	1.1%
痙攣(熱性、無熱性、てんかんを含む)	21	1.1%
硬膜下血腫	43	2.3%
脳内出血	3	0.2%
水頭症	3	0.2%
髄膜炎・脳炎・脳症	3	0.2%
摂食障害	2	0.1%
先天性脳奇形	3	0.2%
愛着障害	7	0.4%
その他	12	0.6%
栄養・消化器疾患 小計	59	3.1%
肝機能障害(A型・B型・C型などの肝炎、黄疸)	9	0.5%
胃腸炎	6	0.3%
先天性消化器疾患(腸閉鎖、食道閉鎖などを含む)	1	0.1%
鼠径ヘルニア	5	0.3%
体重増加不良	24	1.3%
その他	14	0.7%
呼吸器疾患 小計	142	7.5%
気管支喘息(喘息性気管支炎などを含む)	88	4.7%
肺炎、気管支炎	42	2.2%
細気管支炎	3	0.2%
その他	9	0.5%
循環器疾患 小計	35	1.9%
先天性心疾患	30	1.6%
川崎病	1	0.1%
その他	4	0.2%
腎泌尿器疾患 小計	19	1.0%
尿路感染症(水腎症等腎・尿路系の異常を含む)	7	0.4%
停留精巣、尿道下裂	4	0.2%
その他	8	0.4%
アレルギー疾患 小計	71	3.8%
アトピー性皮膚炎	20	1.1%
食物アレルギー	44	2.3%
アレルギー性鼻炎・結膜炎	4	0.2%
その他	3	0.2%
感染免疫疾患 小計	151	8.0%
インフルエンザ	36	1.9%
アデノウイルス感染症	11	0.6%
RSウイルス感染症	63	3.3%
水痘	1	0.1%
その他のウイルス感染症	25	1.3%
先天梅毒	1	0.1%
細菌感染症 (MRSA・ESBLを含む)	0	0.0%
易感染性	10	0.5%
その他	4	0.2%

	人数 (A)	割合
血液疾患 小計	7	0.4%
貧血	5	0.3%
その他	2	0.1%
内分泌・代謝異常 小計	7	0.4%
先天性代謝異常症	2	0.1%
その他	5	0.3%
先天異常・奇形 小計	16	0.8%
口唇口蓋裂	4	0.2%
多発奇形	1	0.1%
その他	11	0.6%
整形外科疾患 小計	15	0.8%
股関節異常(脱臼、臼蓋形成不全など)	6	0.3%
内反足、外反足、X脚、O脚	5	0.3%
その他	4	0.2%
眼科・耳鼻咽喉科疾患 小計	74	3.9%
未熟児網膜症	2	0.1%
視覚障害(軽度、中程度)	5	0.3%
中耳炎	57	3.0%
聴覚障害(難聴)	3	0.2%
その他	7	0.4%
皮膚科疾患 小計	51	2.7%
湿疹(アトピー性皮膚炎を除く)	34	1.8%
血管腫	6	0.3%
その他	11	0.6%
外傷 小計	26	1.4%
頭蓋骨骨折	8	0.4%
その他部位の骨折	10	0.5%
熱傷	1	0.1%
裂傷、打撲	3	0.2%
その他	4	0.2%
その他の病気 小計	12	0.6%
<b>病虚弱児 小計</b>	<b>955</b>	<b>50.5%</b>
重症心身障害児	8	0.4%
脳性麻痺・肢体不自由	3	0.2%
知的発達遅滞	8	0.4%
染色体異常	15	0.8%
重度視覚障害	3	0.2%
重度聴覚障害	0	0.0%
その他の障害	9	0.5%
<b>障害児 小計</b>	<b>46</b>	<b>2.4%</b>
<b>病虚弱児・障害児 小計</b>	<b>1,001</b>	<b>53.0%</b>
<b>合計</b>	<b>1,890</b>	<b>100.0%</b>

※有効回答=139施設

# 参考資料

## 通院状況

- 在籍児童1人あたりの平均年間通院件数は32.45件。

	回答数	月間件数	割合	1施設あたりの通院件数		在籍児童数からみた通院件数	
				月間通院件数	*1 1日あたり 通院件数	*2 平均在籍 児童数	*3 1人あたり 通院件数
平成29年 4月	137	7,379	7.65%	53.9	1.77	2,731	2.70
平成29年 5月	138	7,976	8.27%	57.8	1.90	2,833	2.81
平成29年 6月	138	7,960	8.25%	57.7	1.90	2,796	2.85
平成29年 7月	139	8,246	8.55%	59.3	1.95	2,917	2.83
平成29年 8月	139	7,958	8.25%	57.3	1.88	2,992	2.66
平成29年 9月	139	7,796	8.08%	56.1	1.84	2,939	2.65
平成29年 10月	139	8,563	8.87%	61.6	2.03	3,083	2.78
平成29年 11月	139	9,004	9.33%	64.8	2.13	3,020	2.98
平成29年 12月	139	8,527	8.84%	61.3	2.02	3,137	2.72
平成30年 1月	139	7,750	8.03%	55.8	1.83	3,181	2.44
平成30年 2月	139	7,153	7.41%	51.5	1.69	2,903	2.46
平成30年 3月	139	8,177	8.47%	58.8	1.93	3,176	2.57
合計（年間）	139	96,489	100.00%	695.8			32.45

※有効回答＝139施設

\*1:1日あたり通院件数＝月間通院件数÷30.4

\*2:平均在籍児童数＝月別在籍児童延べ人数(充足状況調査)÷30.4

\*3:1人あたり通院件数＝月間件数÷\*2平均在籍児童数

◆「平成29年度全国乳児院入所状況実態調査・充足状況調査報告書」(平成31年3月全乳協)より抜粋  
 ・調査対象:全国の乳児院139施設(回収率100%) ・調査対象期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日

# 参考資料

## 入院状況

- 「1週間以内」が64.2%と多いが、「3か月以上」など長期の入院もある。

	入院期間別割合			在籍児童1人あたりの入院率		1施設あたりの平均件数・平均日数		
	回答数	件数	割合	*1 在籍 児童数	*2 入院率	延日数	*3 平均 件数	*4 平均 延日数
1週間以内	139	737	64.2%	3,616	20.4%	3,376	5.30	24.29
2週間以内	139	305	26.6%	3,616	8.4%	2,865	2.19	20.61
3週間以内	139	53	4.6%	3,616	1.5%	843	0.38	6.06
1か月以内	139	24	2.1%	3,616	0.7%	532	0.17	3.83
2か月以内	139	7	0.6%	3,616	0.2%	277	0.05	1.99
3か月以内	139	14	1.2%	3,616	0.4%	413	0.10	2.97
3か月以上	139	8	0.7%	3,616	0.2%	1,408	0.06	10.13
合計	139	1,148	100.0%	3,616	31.7%	9,714	8.26	69.88

※有効回答＝139施設

\*1: 在籍児童数は平成29年度暫定定員を含む定員数(充足状況調査)

\*2: 在籍児童1人あたりの入院率＝件数÷\*1在籍児童数×100

\*3: 1施設あたりの平均件数＝件数÷回答数

\*4: 1施設あたりの平均延日数＝延日数÷回答数

◆「平成29年度全国乳児院入所状況実態調査・充足状況調査報告書」(平成31年3月全乳協)より抜粋  
・調査対象: 全国の乳児院139施設(回収率100%) ・調査対象期間: 平成29年4月1日～平成30年3月31日

# 参考資料

## 新規入所理由(主たる理由1つ)

- 多いものから、「虐待」39.4%、「(家族の)精神疾患」17.5%、「母未婚」6.2%、「(家族の)疾病」5.8%となっている。

			うち 被虐待児受入加算			
	人数 (A)	割合	人数 (B)	割合	加算割合 (B/A)	
A 家族の状況	死亡	7	0.4%	1	0.2%	14.3%
	父母死亡	0	0.0%	0	0.0%	-
	父死亡	0	0.0%	0	0.0%	-
	母死亡	7	0.4%	1	0.2%	14.3%
	離別同居	129	6.8%	13	2.2%	10.1%
	親権者養育困難	126	6.7%	13	2.2%	10.3%
	親戚他養育困難	3	0.2%	0	0.0%	0.0%
	受刑(拘留)	78	4.1%	18	3.1%	23.1%
	父母受刑(拘留)	17	0.9%	7	1.2%	41.2%
	父受刑(拘留)	6	0.3%	1	0.2%	16.7%
	母受刑(拘留)	55	2.9%	10	1.7%	18.2%
	不法滞在	6	0.3%	3	0.5%	50.0%
	就労	55	2.9%	1	0.2%	1.8%
	父母就労	11	0.6%	0	0.0%	0.0%
	父就労	6	0.3%	0	0.0%	0.0%
	母就労	38	2.0%	1	0.2%	2.6%
	経済的困難	84	4.4%	10	1.7%	11.9%
	虐待	745	39.4%	469	80.2%	63.0%
	父母不明(遺棄)	3	0.2%	1	0.2%	33.3%
	家出	33	1.7%	18	3.1%	54.5%
	父母家出(蒸発)	1	0.1%	1	0.2%	100.0%
	父家出	3	0.2%	0	0.0%	0.0%
	母家出	29	1.5%	17	2.9%	58.6%
	虐待	631	33.4%	428	73.2%	67.8%
	身体的虐待	193	10.2%	138	23.6%	71.5%
	心理的虐待	73	3.9%	52	8.9%	71.2%
	性的虐待	1	0.1%	1	0.2%	100.0%
ネグレクト・怠惰	364	19.3%	237	40.5%	65.1%	
養育拒否	78	4.1%	22	3.8%	28.2%	
その他	43	2.3%	7	1.2%	16.3%	
A(家族の状況)小計	1,147	60.7%	522	89.2%	45.5%	
B 家族の疾病	疾病	109	5.8%	4	0.7%	3.7%
	父母の疾病	3	0.2%	0	0.0%	0.0%
	父の疾病	2	0.1%	1	0.2%	50.0%
	母の疾病	104	5.5%	3	0.5%	2.9%
	ガン	12	0.6%	0	0.0%	0.0%
	結核	0	0.0%	0	0.0%	-
	産婦人科系疾患	18	1.0%	2	0.3%	11.1%
	内科系疾患	27	1.4%	0	0.0%	0.0%
	外科系疾患	15	0.8%	1	0.2%	6.7%
	その他の疾患	32	1.7%	0	0.0%	0.0%
	精神疾患	330	17.5%	40	6.8%	12.1%
	父母の精神疾患	27	1.4%	6	1.0%	22.2%
	父の精神疾患	6	0.3%	0	0.0%	0.0%
	母の精神疾患	297	15.7%	34	5.8%	11.4%
知的障害	64	3.4%	6	1.0%	9.4%	
父母の知的障害	14	0.7%	2	0.3%	14.3%	
父の知的障害	0	0.0%	0	0.0%	-	
母の知的障害	50	2.6%	4	0.7%	8.0%	
B(家族の疾病)小計	503	26.6%	50	8.5%	9.9%	
C その他	出産	41	2.2%	1	0.2%	2.4%
	次子出産	28	1.5%	0	0.0%	0.0%
	婚外出産	13	0.7%	1	0.2%	7.7%
	出張・研修	0	0.0%	0	0.0%	-
	冠婚葬祭	0	0.0%	0	0.0%	-
	家族の疾病付添	13	0.7%	0	0.0%	0.0%
	児童自身の障害	4	0.2%	0	0.0%	0.0%
	母未婚	117	6.2%	6	1.0%	5.1%
	その他	65	3.4%	6	1.0%	9.2%
	C小計	240	12.7%	13	2.2%	5.4%
合計	1,890	100.0%	585	100.0%	31.0%	

※有効回答=139施設

◆「平成29年度全国乳児院入所状況実態調査・充足状況調査報告書」(平成31年3月全乳協)より抜粋  
 ・調査対象: 全国の乳児院139施設(回収率100%) ・調査対象期間: 平成29年4月1日～平成30年3月31日

# 参考資料

## 職員の状況

(平成30年4月1日現在)

- 乳児院では、保育士、医師、看護師、栄養士、心理士、家庭支援専門相談員、里親支援専門相談員など、多様な専門職の連携により、子どもの養育と家族の支援に取り組んでいる。

〈 常勤・非常勤の内訳 〉

	常勤	非常勤	職員合計	
	人数	人数	人数	割合
施設長	137	2	139	2.4%
医師・嘱託医	11	144	155	2.7%
看護師等	594	95	689	12.0%
助産師	13	2	15	0.3%
保育士	2,405	290	2,695	46.8%
児童指導員	169	21	190	3.3%
その他の直接処遇職員	94	101	195	3.4%
家庭支援専門相談員	167	3	170	3.0%
個別対応職員	124	2	126	2.2%
心理士	94	50	144	2.5%
臨床心理士	61	39	100	1.7%
認定心理士	21	6	27	0.5%
資格なし(心理学を修めたもの)	12	5	17	0.3%
栄養士	192	5	197	3.4%
調理員	385	70	455	7.9%
里親支援専門相談員	113	1	114	2.0%
事務員	193	29	222	3.9%
洗濯・清掃員	55	116	171	3.0%
その他の職員 ※1	64	35	99	1.7%
合計	4,797	964	5,761	100.0%

※有効回答=139施設

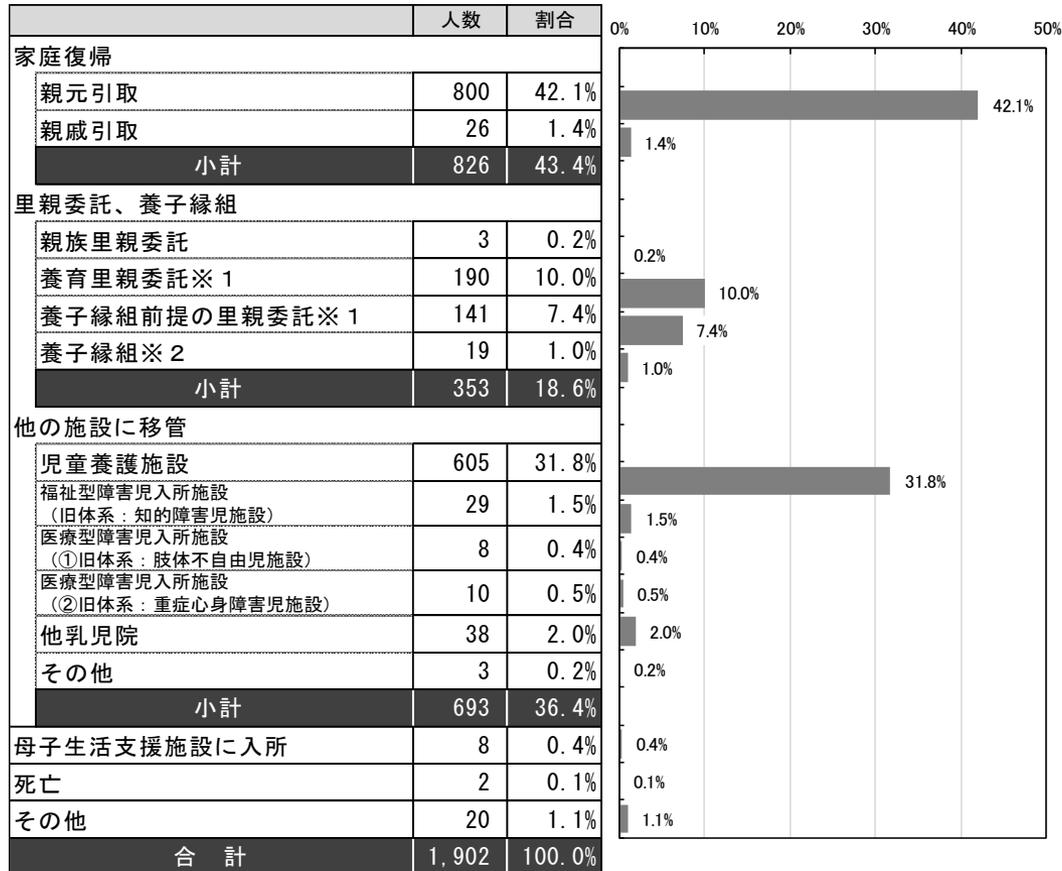
※1:外注などの業務委託職員、派遣職員は含みません

◆「平成29年度全国乳児院入所状況実態調査・充足状況調査報告書」(平成31年3月全乳協)より抜粋  
 ・調査対象:全国の乳児院139施設(回収率100%) ・調査対象期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日

# 参考資料

## 退所理由

- 「家庭復帰」が43.4%、「里親委託、養子縁組」が18.6%、「他の施設に移管」が36.4%。
- 障害児入所施設への移管は、「福祉型」が1.5%、「医療型」が計0.9%。



※有効回答=139施設

※1:ファミリーホームを含む

※2:退所時までに確定しているもの

◆「平成29年度全国乳児院入所状況実態調査・充足状況調査報告書」(平成31年3月全乳協)より抜粋  
 ・調査対象: 全国の乳児院139施設(回収率100%) ・調査対象期間: 平成29年4月1日～平成30年3月31日

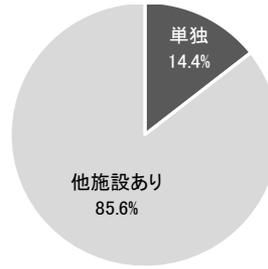
# 参考資料

## 同一法人施設

- 同一法人で医療型障害児入所施設を運営している乳児院は10施設。

### ⑨ 同一法人施設の有無

	回答数	割合
単独	20	14.4%
他施設あり	119	85.6%
合計	139	100.0%



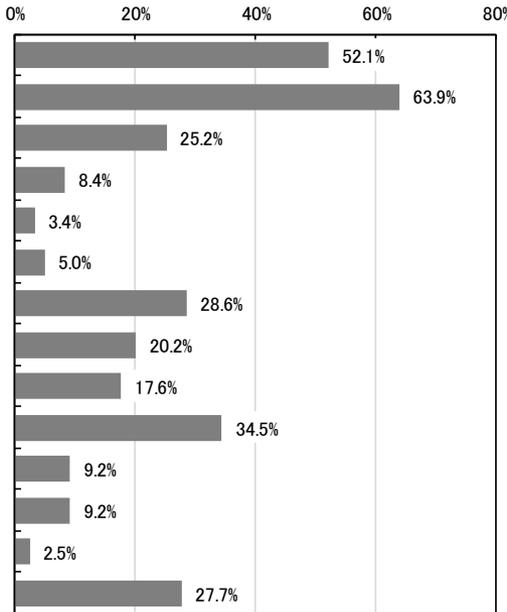
### 〈同一法人施設の場所〉

	回答数	併設	別場所
保育所・認定こども園	62	25	49
	100.0	40.3	79.0
児童養護施設	76	56	29
	100.0	73.7	38.2
児童家庭支援センター	30	21	11
	100.0	70.0	36.7
母子生活支援施設	10	3	7
	100.0	30.0	70.0
医療型障害児入所施設 (①旧体系:肢体不自由児施設)	4	0	4
	100.0	0.0	100.0
医療型障害児入所施設 (②旧体系:重症心身障害児施設)	6	3	3
	100.0	50.0	50.0
その他児童福祉法による児童福祉施設	34	12	24
	100.0	35.3	70.6
障害者支援施設	24	5	21
	100.0	20.8	87.5
障害者支援施設以外の 障害福祉サービス事業等を行う施設	21	7	16
	100.0	33.3	76.2
老人福祉施設	41	16	30
	100.0	39.0	73.2
病院	11	6	6
	100.0	54.5	54.5
診療所	11	4	7
	100.0	36.4	63.6
保育専門学校	3	1	1
	100.0	33.3	33.3

※上段:施設数、下段:割合

### 〈同一法人施設の内訳〉

	回答数	割合
保育所・認定こども園	62	52.1%
児童養護施設	76	63.9%
児童家庭支援センター	30	25.2%
母子生活支援施設	10	8.4%
医療型障害児入所施設 (①旧体系:肢体不自由児施設)	4	3.4%
医療型障害児入所施設 (②旧体系:重症心身障害児施設)	6	5.0%
その他児童福祉法による児童福祉施設	34	28.6%
障害者支援施設	24	20.2%
障害者支援施設以外の 障害福祉サービス事業等を行う施設	21	17.6%
老人福祉施設	41	34.5%
病院	11	9.2%
診療所	11	9.2%
保育専門学校	3	2.5%
その他	33	27.7%
回答数	119	



◆「平成29年度全国乳児院入所状況実態調査・充足状況調査報告書」(平成31年3月全乳協)より抜粋  
 ・調査対象:全国の乳児院139施設(回収率100%) ・調査対象期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日

# 参考資料

## 新規入所児童数、在所児童数

- 平成29年度について、新規入所児童数は1,890人、児童相談所からの一時保護委託児童数は2,945人。
- ※平成25年度を境に、一時保護委託児童数が新規措置入所児童数を上回っている。

◆平成29年4月1日～平成30年3月31日

①措置児童数 A		2,603人	平成29年4月1日現在の入所児童数
		1,890人	新規入所した措置児童数
②措置以外の 児童数	B	2,064人	児童相談所から「一時保護委託」された児童数 (後に措置入所になった児童を除く)
	C	88人	「私的契約」で受け入れた児童数
	D	189人	児童相談所から「レスパイト・ケア(平成24年3月29日雇児発0329第6号通知)」を委託された児童数
	F	5,301人	市町村による「ショートステイ」「トワイライト」等の子育て支援事業等で受け入れた児童数
①②合計		12,135人	
③退所児童数		1,902人	退所した児童

◆「平成29年度全国乳児院入所状況実態調査・充足状況調査報告書」(平成31年3月全乳協)より抜粋  
 ・調査対象: 全国の乳児院139施設(回収率100%) ・調査対象期間: 平成29年4月1日～平成30年3月31日